

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.007

a taste of Y'assy

田中 康夫



たなかやすお●'56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選、
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブ
ログ】www.nippon-dream.com/



現在のレバノンに相当する地域で勃興した古代フェニキアはカルタゴ、バルセロナ、マルセイユを始めとする地中海沿岸に紀元前1千年紀前半、都市を建設します。チュニジアの首都チュニス近郊に誕生したカルタゴは、フェニキア語で新都市を意味します。「植民地」の嚆矢。大西洋に流れ込むテリジヨ川の河口に位置するリスボンも、その一つです。
星霜を経て、700年余に及ぶイスラム支配からの「国土回復運動」レコンキスタを果した

閑静な一廓で味わう塩鱈に海洋国家ポルトガルを想う

今週の逸品



バカリヤウと色々野菜の土鍋煮

3500円、5000円のコースは前菜・主菜にアロスと呼ばれる米料理・食後で構成。アラカルトの場合は前菜で何れも600円のバカリヤウのコロッケか砂肝のトマト煮、1200円のイワシのグリル切りを摂り、主菜でバカリヤウと色々野菜の土鍋煮1800円、若しくは2400円の海の幸のカタブルーナ鍋を。1500円のタコご飯で満腹。ルイス・パト銘柄を始めとするワインも適価。ファドとは「宿命」を意味するポルトガルの民謡。

【マヌエル カーザ・デ・ファド】東京都千代田区六番町11-7 地下1階
☎03-5276-2432(<http://www.pjgroup.jp/manuel/>)

illustration by Hajime Anzai

ポルトガルは、1498年にヴァスコ・ダ・ガマがインドへと東進。1500年には第2次インド遠征隊がブラジルに漂着します。而して「大航海時代」とは、テューダー朝第5代エリザベス1世の下命で1560年代に奴隷船団を編成したイギリスが、「奴隷貿易」の魁たるポルトガルを凌駕していく過程でした。他方、ポルトガルは1557年にマカオの居留権を明朝から「強奪」します。

その14年前に種子島へ辿り着いたのが、偶さか中国船に乗り合わせた僅か2名のポルトガル人ではなく、火縄銃を満載のポルトガル軍艦の船であったなら、歴史に「若しも」は禁じ手とは言え、今や年間2500万人近くが来訪し、カジノ売上高が世界最大のマカオをも上回る「保養地」へと種子島は変容していたかも知れません。

海洋国家のポルトガル、更にはスペイン、イタリアでは、魚介類を内陸部へも供給すべく、干ししや塩漬の処理法が生まれます。植民地となった中南米諸国でも食される塩漬の干し鱈バカリヤウは、歴史的必然なのです。



ウは、その代表格です。思えば日本にも真鱈を天日干した、その名も棒状の棒鱈が存在します。東北や北海道の保存食だった棒鱈は、北前船で関西へと運ばれ、正月の食材となりました。今でも年末の市場には、値札を付けた棒鱈が吊されます。リスボンやナポリの集合住宅の窓に乾された洗濯物の様に。それは、関東ではお目に掛からぬ光景です。
「マヌエル カーザ・デ・ファド」は、イエズス会が開設した上智大学から程近い閑静な六番町の一廓でポルトガル料理を供します。
前菜でバカリヤウのコロッケと特製チヨリソを摂った後に、塩鱈からしみ出た出汁が野菜を包み込む「バカリヤウと色々野菜の土鍋煮」を是非。
因みに、創設者としてフランシスコ・デ・ザビエルも名前を連ねるイエズス会は18世紀、虐げられし南米の先住民民族グアラニー族への単なる布教活動に留まらず、牧畜・畑作を習得させ、奴隷貿易からの自律を説いた廉で、ポルトガル・スペイン両国の領土から追放された歴史を有します。
全世界の善男善女からの献金を元手に「財テク集団」として狂奔し、恬として恥じぬヴァチカンローマ教皇庁の官僚集団に対し、イエズス会の現総長アドルフ・ニコラス神父が「警句」を吐くのは、歴史的必然なのです。